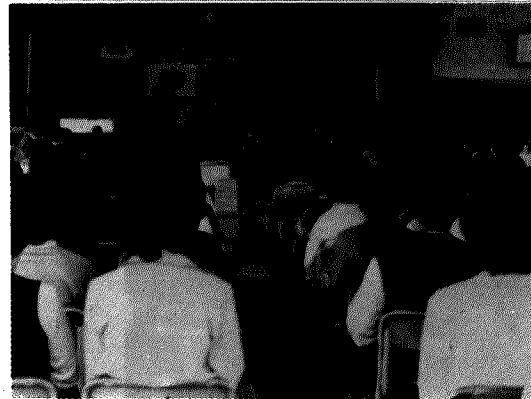
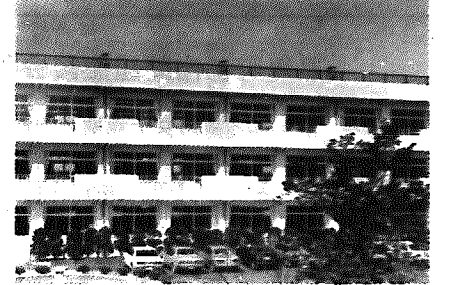


# 屋外体育施設ナイター設備 大野小学校増築 合同竣工式行う



▲古い校舎



▲新しい校舎

大野小学校の増築事業と、屋外体育施設のナイター設備完成の合同竣工式が、四月十八日、同校体育館で、児童や関係者など五百人が列席して、盛大に行われました。

老朽化の著しかった大野小学校は保育所側の校舎を取りこわし、新たに同位置に、鉄筋コンクリート三階建、延面積一四七一・八六平方メートル、総工事費一億九千三四五万円を投入し、りっぱな校舎に生まれ変わりました。

野球場も早くから、ナイター設備の設置を愛好者たちから望まれていたもので、四千三十七万円をかけ、近郷にない明るい照明度を持つ、ナイター設備が完成し、五月一日にはナイター開きが行われました。

ナイター開きは、浅妻町長はじめ、町会議員及び黒崎野球連盟ら関係者約百名が出席、夜七時、点



火式とともに、四基の照明塔に灯りが点り、グラウンド一面を明るく照らしました。初のナイター試合は、浅妻町長の始球式で始まり、夜空に白球が舞いあがりしました。

▲ナイター開き

## 善久老人クラブが 空カン・ゴミ拾いの奉仕

澄みきった青空の下、善久老人クラブ員三十人が参加して、部落の町道や空地、電車軌道などに捨てられている、空カンや空ビンなどのゴミ拾いの勤勞奉仕を行い、地域の人から喜ばれています。四月二十七日は好天に恵まれ数班に分かれて、それぞれビニール袋や布袋を手に、部落の大掃除を行いました。参加した老人の一人は「少しでも皆さんの役に立ちたいと、そして、これからの老人は世間からなくなっても愛される人間にならなくて……」と、初夏を思わせる陽差しをいっぱい受け、額に汗し



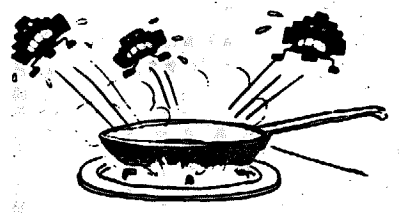
ながら、もくもくとゴミ拾いに精を出していました。なんとこの日集めたゴミは、大きなビニール袋に、七〇袋にもなり、会員はあまりの多さにビツクリ「投げ捨てないで、家へ持ち帰れば、きれいになっているのに」と半ばあきれた様子で、話していました。

## 揚げものいためもの 油の上手な使い方

揚げものやいためものなどをするときに、ご家庭では油の使い方をいろいろ工夫されていることでしょうが、永年の習慣には意外と思われぬロスがあるものです。台所でできる省資源の一つ——油の上手な使い方について、一度見直してみましよう。

### 油を長持ちさせる方法

一度使った油を鍋に入れればなにしておくのは、よくありません。油そのものが酸化しやすいだけでなく、錆の鉄分、金属が油に溶けて酸化を早めます。熱いうち



ムダのないフライの揚げ方  
天ぷら方式でフライをすると、残り油がたぐさでできます。残り油を少なくするためには、いため揚げ方式でフライをするといでしょう。

一回の油量は九〇ミリリットルもあればよく、天ぷら方式の半分以下の使用量です。出来上がりも、油が全体によくなじみ、トンカツなど肉類も柔らかく、衣もソフトに仕上がり、一石二鳥です。

いため揚げ方式とはフライパンの油に、衣をつけた材料を入れてふたをして十分十五分ゆっくりと焼きます。火は弱火で蒸し焼きにし、裏返してさらに十分、両面にきれいなこげ目がついたらふたをとり、蒸気を飛ばしてカリッとさせる方法です。

また、野菜やレバーなどのいためものには、天ぷらを揚げた残り油を活用するも、台所の省資源につながります。

### いたんだ油の見分け方

こまかい泡(カニ泡)がたぐさん出たら、危険信号です。衣がべとつとし、三〇〜五〇%も油の付着量がふえたり、緑の野菜を揚げても汚い色に揚がるようだと、いたんでいる証拠です。

### さし油のめやす

一回揚げごとに、油が減りますから、その分新たに加えます。(さし油)が、普通、六〜七回まで大丈夫です。から揚げの場合、肉や魚の成分がそのまま油に溶け出しますので、油が悪くなるのが早いといえます。衣をつけると、から揚げに比べて油は長持ちします。

## 明日の文壇へ作文

# 宗村かおりさん(大野小三年)が 県知事賞受賞!

## たのしいおふろ

「せんしゅ交たい。」とおとうさんがいって、わたしたちとかわります。わたしと妹は、かわりばんこにせなかをこすりあいます。そして、おふろの中に入ります。おかあさんは、弟をあらいながらわたしに話しかけます。おかあさんがこまごま話をわたしにそらだんします。みんなでどうしたら一番よいかいろいろかん



賞状を手にもつかおりさん

がえまます。弟もいっしょに考えているみたいで、いろいろ話をしていきます。そうしているうちに、わたしと妹がおしあいつこになつてけんかになります。するとおかあさんが「きょうだいなかくよく、ゆずりあつて入りなさい。」といひます。わたしは、そのときよくは

わたしの家では、おふろの中でかぞくがいきをします。一しゅう間に一ど、おとうさん、おかあさん、妹、弟、そしてわたし。かぞく五人でおふろに入ります。おふろの中は、体と体がぶつかりあい、ぎゅうぎゅうづめで

どうしても一人は、はみだしてしまいます。その一人がいつもおとうさんです。おとうさんは、体をあらいな中であたりながら、話をはじまるのです。一番先におとうさんが、わたしと妹に、「きょう一日どんなことがあった。」と聞きます。わたしは、学校であったことを話します。妹は、ようちえんで友だちとあそんだことや、ならったことを話します。そして弟にも「日いい子にしてたか。」と聞くと、弟は「うん」と、うなずいてニコニコしています。